垂水市教育委員会

令和８年度第５回教育委員会定例会

開催日　　令和８年８月７日(金)

時　間　　午後２時から

場　所　　市民館２階第２研修室

会議日程

１　開　会

２　令和8年度第4回定例会会議録の承認について

３　議　事

※(非)印の案件は、非公開となる場合があります。

報告第21号　鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について

(非)議案第６号　垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

(非)議案第７号　議案（垂水高校永瀬奨学金基金設置条例）の作成における市長への意見申出について

４　動議の討論等

５　その他

６　委員並びに教育長及び課長報告

７　閉　会

令和8年度　第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
令和8年8月7日（金） 午後2時00分 ↓ 午後3時10分 第２研修室	教　育　長　明石　浩久 教育委員　吉冨　和夫 教育委員　葛迫　幸平 教育委員　田之上　厚美	教育総務課長　堀　留　　豊 学校教育課長　西　　啓　亨 社会教育課長　大迫　隆男

会　議　要　旨

１　開　会

定足数に達しており、令和８年度第５回教育委員会定例会を開会した。

議案第６号及び７号については、非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で可決された。

２　前回会議録の承認について

令和８年度第４回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で可決された。

３　議　事

報告第 21 号　鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について

議案第６号（非公開）　垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

議案第７号（非公開）　議案（垂水高校永瀬奨学金基金設置条例）の作成における市長への意見申出について

４ 動議の討論等

5 その他

6 委員並びに教育長及び課長報告

7 閉 会

議 決 事 項

件　　名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第21号 鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	魅力ある学校づくりのため、校種間連携に関する取り組みを進めるため、補助金要綱の一部改正を行ったことを報告したもの	特記事項なし	承 認
議案第６号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定に基づく「垂水市教育委員会の事務の点検及び評価並びに外部評価委員会の評価結果報告書」をとりまとめたことから、本報告書について、会議の議決を求めるもの	非公開	可 決
議案第７号 議案（垂水高校永瀬奨学金基金設置条例）の作成における市長への意見申出について	同条例の策定にあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に基づき、市長から意見を求められたことから、同条例について、市長に意見を申し出ることについて、会議に付するもの	非公開	原案に異議なし

議 事 内 容 等

３　議　事	
教育総務課長	報告第21号 鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について ＜資料に沿って説明＞ （質疑）　なし （採決）　承認
教育総務課長	議案第６号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について ＜非公開＞ （採決）　可決
教育総務課長	議案第７号 議案（垂水高校永瀬奨学金基金設置条例）の作成における市長への意見申出について ＜非公開＞ （採決）　原案に異議なし
４　動議の討論等	（なし）
５　その他	（なし）
６　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。 まずは、吉冨委員からお願いしたい。
吉冨委員	7月27日月曜日、垂水高校振興対策協議会総会に出席しました。協議会会長の尾脇市長のあいさつの後、この春、新しく沖永良部高校から赴任された徳留校長から、学校の状況と入学者確保に向けた取り組み等について説明がありました。また、学校から補助金計画が示されました。補助金の内訳は、検定試験費等補助金、部活動活性化補助金、広報支援補助金、通信講座受講料補助金、通学費補助金、家賃補助金、制服補助金と、他にも類を見ない充実ぶりであることがわかりました。前年度まで、垂水高校では、校長先生をはじめ職員の先生方が鹿屋市や鹿児島市の中学校で学校説明会

	を開催し、懸命に垂水高校のよさをアピールされており、新入生の獲得に尽力されておられました。また垂水高校生向けの新たな奨学金事業について、教育総務課長から説明がありました。大学進学を目指す生徒にとっては、希望を大きく持つことができ、大変ありがたいことと思いました。 7月29日水曜日、県庁舎で開催された市町村教育委員会委員研修会に参加しました。冒頭、県教育長のあいさつで、教師の働き方改革の推進と不祥事根絶についてお話がありました。各課説明事項では、「こども性暴力防止法について」、「学校における業務改善の推進について」、「公立小中学校の施設整備について」の説明がありました。講演では、「子供のインターネット利用の現状と課題、対策」として、教育ＤＸ推進室の今村先生、元本市学校教育課指導主事の先生が、県内の小中学生の小中高校生の利用の実態と様々な問題点を説明されました。その対策として、フィルタリングの設定と、家庭でのルールづくり、保護者の目の届くところでの使用、保護者の管理下が重要であることと、創造的なスマホの活用を大人が子供と一緒になって考えていくことを強調されておりました。インターネット利用の研修を希望する団体には出前セミナーも行っているとのことでした。最後に「部活動の地域展開、地域連携の推進について」のグループ協議がありました。少子化に伴い、中学校の部活動が学校単位から近隣の学校と統合して、クラブチームが進んでいる現状や、外部指導員の選考について、その問題点や課題について、各グループで協議がなされました。今後も各地域の実態に合わせて、部活動の地域展開、地域連携が進められていくこととなります。
葛迫委員	第12回和田英作・香苗記念絵画コンクールの実行委員会については、事前に担当者と打ち合わせしていたため、「第12回和田コンの会期を令和8年12月6日日曜日から13日日曜日の８日間、会場を垂水市文化会館、作品の搬入を11月8日日曜日、審査日を11月12日木曜日、審査員は昨年と同様、葛迫幸平、五反田邦夫、宍野寛の3名、結果発表を11月の20日金曜日、表彰式、ギャラリートークを12月6日日曜日、作品の搬出は、12月13日日曜日午後3時からとしました。」と報告を受け、実行委員会が無事終了との連絡を担当者から受けました。 次に、14日火曜日の令和8年度垂水市図画作品審査会については、当初、私と画家の小濱亜由美先生と審査を進めていく予定でしたが、私が入院中ということで、「指導主事の河野先生を軸として、小濱先生、中央中の瀬戸口先生で進めていってください」とお願いしたところです。また、作品の選出は、各学年5点を特選に選んでいただき、その結果を河野先生よりメールで送信してもらい審査を進めていきました。次に県に提出する小学生の作品7点、中学生の作品5点、合計12点を最後に決め、審査会を終了したところです。今年の作品については、昨年もそうでしたが、子供たちが「何を描くんだ」ということがはっきり示された作品が上位を占めてとてもよかったと思いました。昨年よりも小学生の作品に優秀な作品が多く集まった感じがしました。 19日日曜日に開催された垂水街角美術館の黒岩けい子展については、私は18日に退院しましたので、当日のオープニングに参加でき、胸をなでおろしたところです。会場は川畑瓦工業の事務所ギャラリーであり、参加者

	は鹿児島市や、鹿屋市、垂水市を含めて約40名程度の参加がありました。実は作家である黒岩けい子さん本人が入院されていたことで、本人の長女である鹿児島市在住の平野亜子さんに参加していただき、オープニングを進めていきました。作家あいさつの中で、平野亜子さんは母の代読という形で「『ひたすら挑戦』というサブタイトルにあるように、年齢や心情の移り変わりで作品が変わっていくことにひたすら挑戦する。そのことを考え、作品制作に力を注いでいた」と話されていました。この後、作品を観覧し、作品から見える考え方や技術などの説明、そして観覧会の内容として、日本画と洋画の違い、なぜ鹿児島に日本画が広まらなかったのかなどといった、私なりの考えについて話をし、2時間ほどのセレモニーを終えたところです。
田之上委員	7月13日、肝付地区市町村教育委員会連絡協議会に出席しました。まずは総会で令和7年度の事業報告、決算等の報告があり、次に令和8年度の事業計画予算案等を可決した後、東串良町教育委員会と南大隅町教育委員会から事例発表がありました。東串良町教育委員会からは魅力ある学校づくり地域に根差した学校づくりの取り組みが発表されました。南大隅町教育委員会からは郷土に誇りを持つ子供たちの育成を目指して、南大隅町のよさを生かした特色ある教育活動についての発表がありました。どちらも町の現状を踏まえて、子供たちの豊かな教育活動を目指して地域と連携をして取り組んでおられる様子を伺うことができました。 次に7月29日の市町村教育委員会委員研修会に、私も吉冨先生と一緒に出席をさせていただきました。詳しくは、先ほど吉富先生の方から説明があったのでこの場では省きたいと思います。 夏休みの児童クラブの様子ですが、7月は50人から55人ぐらい、8月に入ってから若干減って40人から45人ぐらいの子供たちが利用しているところです。連日、すごく暑い日が続いていて熱中症や体調に注意をしながら見守っているわけですが、子供たちも毎日のことなのでほぼ固定しており、子供たちは9時前の早い時間に外遊びを組んだり、小学校の体育館をお借りして遊んだり、リモートのチャレンジスクールで絵を書いたり、避難訓練をしたりと、あれやこれやといろいろなことを取り入れながら過ごしているところです。今年も長い休みですが、学校支援員の多くの先生方が協力してくださっていて、何とか今のところ、けがもなくやれているところです。
教育長	児童クラブの様子ですが、利用者は50人ぐらいということで多くて大変そうです。避難訓練をし、プログラムを組んで、活動をしてくださっていることをありがたく思うことです。 私の方から、7月17日金曜日、教育委員会３課の職員総出で市民館を囲むツツジの生け垣の手入れを行いました。午後3時から約2時間、ツツジの中から飛び出しているチガヤを一本一本抜く作業でした。毎年行っていますけれども、やはり大変な作業でした。職員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ある教育委員会の指導主事のときに当時の教育長から「お盆は久しぶりに帰省した人たちが、懐かしさから母校を見に来ることがよく

	あるから、学校はきれいにしておかないといけない。」と指導を受けたことがありました。その言葉が忘れられずに、垂水中央中でも、吉野中でも草刈りに精を出したり、朝夕2回、花に水をやったりしたことを思い出します。学校を通りかかるとタイマー付きの水やりホースがフェンスなどに取り付けてある光景をよく目にします。私の頃もこれがあったらなあと思うとともに、働き方改革で、先ほどの教育長のような指導もなかなか難しくなったと感じることでした。いずれにせよ、車や徒歩で市民館近くを通る市内外の方々は、意識はされないと思いますが、すっきりとした環境の中を通行していただければ幸いです。 　7月26日日曜日に「第20回錦江湾マリンフェスタin垂水」を開催しました。このイベントは、当初、シーカヤック大会として行われておりましたが、内容をマリンスポーツ体験に変更し、3年目となります。しかしながら、昨年、一昨年と天候不良により、中止となったため、今回が内容をリニューアルして、実質初めての開催ということになりました。子供から大人まで、最高齢は65歳だったかと思いますが、34人の参加者に、サップ、ビッグサップ、シーカヤック、バナナボートを体験してもらい、垂水の海に親しむとともに、マリンスポーツの楽しさを味わう機会としていただきました。事故なく、体調不良者もなく終えることができましたが、厳しい暑さをずっと心配しながらの開催となりましたので、次年度以降につきましては、社会教育課長と相談しながら、運営方法の見直しを行っていきたいと考えたところです。ところで、シーカヤック大会の頃、私もチーム垂水中央中として、壽原教頭先生と2人でレースに参加し、私が前で漕ぎ、教頭先生は後ろを漕ぎましたが、後ろは本当に漕いでいるのかと思うくらい、きつかったことを覚えています。壽原教頭先生は、現職の校長で亡くなられて、5年が経ちます。中央中での補佐を含め、大変お世話になり、また、いい思い出をたくさんいただいたことに心から感謝しております。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	７月 11 日から８月７日までの主な行事等について各課長が報告。併せて、８月８日から９月 14 日までの行事予定についてお知らせした。
７　閉　会	